

開会のご挨拶



寺澤 捷年 先生

千葉中央メディカルセンター 和漢診療科 部長

- 1970年 千葉大学医学部 卒業
- 1979年 富山医科薬科大学 和漢診療部 講師
- 1982年 同 和漢診療部 助教授
- 1990年 同 医学部 和漢診療学講座 教授
- 1999年 富山医科薬科大学 医学部長
- 2002年 富山医科薬科大学 副学長、同 附属病院長
- 2005年 千葉大学大学院 医学研究院 和漢診療学講座 教授
- 2010年 千葉中央メディカルセンター 和漢診療科 部長

日本東洋医学会学術総会サテライトシンポジウムである『東洋医学シンポジウム』も今回で20回目となります。第1回は、並木正義先生(前、旭川医科大学第三内科 教授)が座長を務められ、私はシンポジストの一人として登壇させていただきました。翌年の第2回より第10回までは私がコーディネーターをお引き受けし、第2回は『漢方に不定愁訴はない』、その後は『こんな時には漢方を—各科別漢方の生かし方—』として開催させていただきました。第11回からは後山尚久先生(大阪医科大学健康科学クリニック寄附講座 未病科学・健康生成医学 教授)が第19回までコーディネーターを務められ、本会を大いに盛り上げていただきました。この度、ご縁があって再登板させていただいた次第です。

私は19歳で漢方の勉強を始め、やがて50年が経とうとしていますが、毎日が感動の連続です。私が処方した漢方薬によって、劇的な効果を得ることは毎日のように経験しているわけであり、漢方を勉強していて本当に良かったとつくづく感じています。

本日は、私の門下生である精鋭6人の先生から、ご自身が感動した、驚いた症例を紹介していただきます。証に随い治療を行うことで驚くほどの効果が得られた、漢方の真骨頂ともいふべき症例ばかりです。